東京家政学院大学大学院

人間生活学研究科

―男女共学―

家政学専攻　取得可能な学位：修士（家政学）／栄養学専攻　取得可能な学位：修士（栄養学）

Tokyo Kasei Gakuin University

Graduate School of Human Life Sciences

Family and Consumer Sciences　/　Nutrition Sciences

2026

中学校、高等学校、大学、大学院まで――。
東京家政学院の根幹、創立者大江スミの掲げたKVA精神

実践的な知識人としての使命を果たし得るとともに、徳性および感性豊かな人材を育成する教育理念は、
東京家政学院中学校、東京家政学院高等学校、東京家政学院大学、東京家政学院大学大学院に共通する建学の精神です。

KVA精神

知識(Knowledge)の啓発 → 知識を高める
徳性(Virtue)の涵養 → 徳性(人間性)を養う
技術(Art)の錬磨 → 技術を磨く

この頭文字をとって、【KVA精神】と呼んでいます。
知識（Knowledge）と技術（Art）を高めるだけでなく、
もっとも大切な徳性（Virtue）を養う。
そんな建学の精神を根幹に、創立者 大江スミが掲げた
「人々のしあわせにつながる家政学」は、
本学院に脈々と受け継がれています。

東京家政学院 創立者
大江スミ

家政学の確立と女性の自立をめざして東京家政学院を創立

４年間の英国留学を経て、家政学が社会の基礎単位である家庭生活の質を高め、社会生活それ自体を豊かにする学問であると確信したスミ。高度な教養教育と、実験・実習を重視した独自の家政学を実現するため、東京家政学院（現・東京家政学院大学）を創立し、「家政学の殿堂」として全国にその名をとどろかせるようになりました。

KVAとは「知・徳・技」。100年を超える歴史を持つ本学が、建学以来ずっと育成の根幹に据えてきた建学の精神です。
知識（Knowledge）と、技術（Art）を高めるだけでなく、その真ん中にある、最も大切な徳性（Virtue）を養う。
この頭文字をとって「KVA精神」と呼んでいます。
校章の由来は、愛と純潔の象徴であるバラの花に、建学の精神であるKnowledge・Virtue・Artを組み合わせたもので、
良き社会人・家庭人を育成することが建学の精神であることを示しています。
創立者、大江スミが掲げた「人々のしあわせにつながる家政学」は、この精神のもとに、本学に脈々と受け継がれています。

婚礼の着付け第一人者である初代遠藤波津子先生による「着付けと整容」(昭和2年)

自動車が普及する前の「運転実習」に使われた生産台数10台のダットサン(昭和7年)

帝国ホテルでテーブルマナーを実践した試食会(昭和12年)

「調理実習」は農作物を育てるところから調理まですべてを体験(昭和14年)

Message

東京家政学院大学 学長
鷹野 景子

生活に関わる事象を学際的視点で探究 知識の深化と切磋琢磨の場を提供

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、人々の生活は一変しました。一人ひとりが、それぞれの人生や日々の生活における価値観を自らに問い、グローバル社会の一員として、何を大切にして生きていくべきかを改めて考えるようになりました。

そして今、身近な生活の課題を解決するために、人間の生活を科学的に探究することが求められています。

本学大学院「人間生活学研究科」では、総合科学としての人間生活学に興味のある学生に広く門戸を開いています。高い専門的知識を教授することに加えて、その道の専門家たちからの知的刺激や院生同士の切磋琢磨により、高いレベルの課題解決能力やリーダーシップを身につけることができます。

大学院での学びは、将来の選択肢を格段に拡げます。深い知識や多様な経験で培った力を活かして、本学修了生は、学術界、教育関係、企業等で活躍しています。

東京家政学院大学大学院 人間生活学研究科長
林 一也 教授

現代社会の多様な問題を見つめ その解決方法を自ら探究し 社会に貢献する

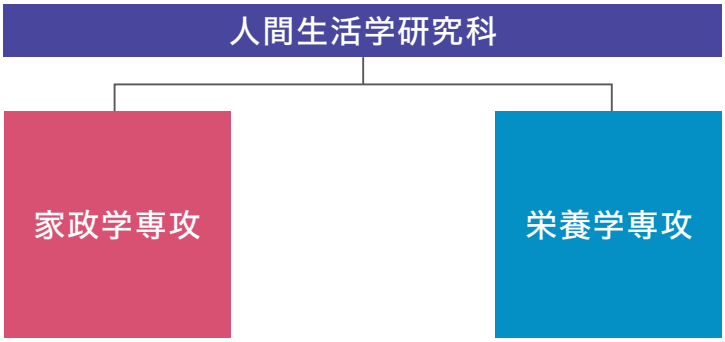
現在社会は様々な問題に直面しています。私たちが生活するこの社会が持続的に機能し、発展していくことを実現するための様々な課題を見いだし、その解決を図る意欲的な教育研究を行うのが人間生活学研究科です。

「人間生活学」は、人間の生活にかかわる事象を科学的に研究する学際的な学問です。私たちの生活は便利で豊かになった一方で、環境汚染や地球温暖化など、この地球環境を維持するためには待ったなしの状況になっています。私たちが暮らしやすさを求めてきたことが、様々な環境問題と密接に関係してたことを気づかされたのが今日です。このような環境問題に対処するためには、一人ひとりが人間生活と環境との関わりについて認識と理解を深め、環境教育やESD（持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動）といった多様な問題の解決につながる学習・教育活動が必要です。 人間生活学研究科は、学士課程（現代生活学部、人間栄養学部）の教育を発展させた２専攻により、現代社会が抱える多様な課題を解決に導く教育研究に取り組んでいます。少人数教育の中、院生は教員や院生同士の活発なディスカッションを通して、高度な専門性が求められる職業を担うための学識、能力および倫理観を培い、社会に貢献する人材を育成します。

History

- 1923（大正12年）家政学の大家大江スミ、東京市ヶ谷富久町に「家政研究所」を設置
- 1925（大正14年）「東京家政学院」を設立、東京三番町に校舎が完成
- 1927（昭和2年）「東京家政専門学校」を設置
- 1950（昭和25年）「東京家政学院短期大学」を設置
- 1951（昭和26年）財団法人を学校法人に改組 東京家政学院短期大学に「別科」を設置
- 1963（昭和38年）「東京家政学院大学／家政学部家政学科」を設置
- 1968（昭和43年）大学家政学部家政学科に「家政学専攻」および「管理栄養士専攻」を設置
- 1984（昭和59年）短期大学に「英語科」を設置 町田校舎を開設
- 1988（昭和63年）大学家政学部に「住居学科」を設置
- 1993（平成5年）大学に「人文学部／日本文化学科・工芸文化学科」を設置
- 1994（平成6年）短期大学「家政科」を「生活科学科」と名称変更
- 1995（平成7年）短期大学「別科（家政学専修）」を「別科（生活科学専修）」と名称変更 **東京家政学院大学大学院人間生活学研究科 生活文化専攻修士課程を設置**
- 1999（平成11年）大学人文学部に「人間福祉学科（社会福祉専攻／介護福祉専攻）」「文化情報学科（文化情報専攻／比較文化専攻）」を設置
- 2004（平成16年）短期大学生活科学科に全国初の「食品バイオ専攻」を設置
- 2005（平成17年）大学家政学部に「児童学科」を設置
- 2007（平成19年）**大学院人間生活学研究科が男女共学となる**
- 2010（平成22年）大学に「現代生活学部／現代家政学科・健康栄養学科・生活デザイン学科・児童学科・人間福祉学科」を設置
- 2011（平成23年）「千代田三番町キャンパス」と「町田キャンパス」の2キャンパス制がスタート
- 2018（平成30年）大学に「現代生活学部食物学科」と「人間栄養学部人間栄養学科」を設置
- 2020（令和2年）**大学院人間生活学研究科に「家政学専攻／栄養学専攻」を設置**
- 2023（令和5年）**創立100周年**
- 2025（令和7年）大学に「生活共創学部／生活共創学科・こども教育学科」を設置
- 2026（令和8年）大学が全学男女共学化

2つの専攻で育成する、
社会が求める「知のプロフェッショナル」



修士（家政学）

社会または、次世代の教育の場で
貢献する人材を育成

修士（栄養学）

食・栄養に関わる科学的根拠を蓄積し、
実践する人材を育成

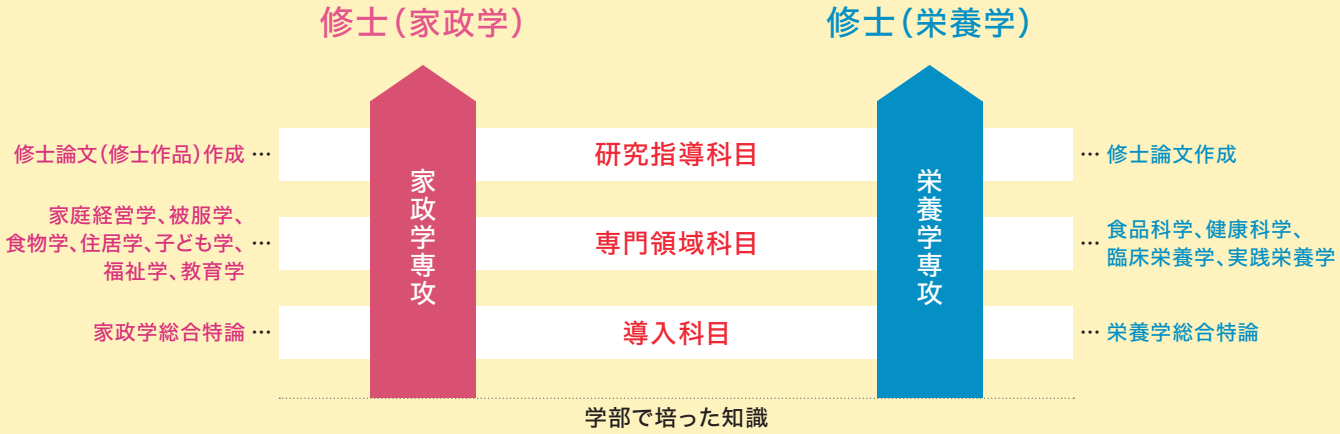
人間生活学研究科は、質の高い生活を創造するための理論および実践を研究する「家政学専攻」と、人々の健康の維持増進に向けた戦略的な方法論を研究する「栄養学専攻」があり、学士課程教育との連続性を意識しながら、人間生活に関わる専門的知識や技術を修得することができる家政学・栄養学の中核的な教育研究拠点として、2020年に2つの専攻を開設しました。社会・環境の変化が著しい時代において、持続可能な社会の実現や生活の質をより向上させていくためには、広い視野に立って精深な学識を有する「知のプロフェッショナル」が必要です。現代社会が直面する個人、家族、地域および地球規模の諸問題に対しても実践的に貢献できる有為な人材を育成します。

■社会を牽引する教員による教育・研究体制

本大学院の講義は、各分野をリードしている教員によって少人数制のゼミ形式で行われます。研究指導は、指導教員（主指導教員、副指導教員）のもと、設定した研究課題に基づき、修士論文の提出を目指して準備を進めていきます。

※家政学専攻では、特定の課題の研究成果（修士作品）についての審査を受けることもできます。

2つの専攻分野の垣根を超えた横断的な履修体制



人間生活学研究科を構成する家政学専攻と栄養学専攻では、専攻を横断した普遍的なスキルやリテラシーなどを身につけるという観点から、相互の授業科目を履修することができる仕組みを整えています。履修した他専攻の授業科目の単位は、6単位を超えない範囲で、在籍している専攻において修得したものとみなすことができます。

人間生活学研究科　3つのポリシー

アドミッション・ポリシー

知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材、あるいは高度な専門的知識・能力を持つ専門職業人を目指し、これまでに培った学識や能力を基盤に、学術の理論および応用の深奥を究めようとする好奇心の強い人、又、多様な経歴や価値観を持った人を幅広く求めている。

【知識・技能】 専攻分野を広く学び、有為な人材として社会で活躍するために必要な高度な知識・技能を身につけたい人。

【思考・判断】 人間生活に係る諸問題を発見し、学際的、実践的な研究を通じて、人間生活の本質的な価値を追究したい人。

【関心・意欲・態度】 人間社会の多様な営みに興味・関心を持ち、生活の質の向上と人類の福祉に貢献したい人。

【　表　現　】 他者を理解した上で、自らの見解を形成し、それを豊かに表現する能力を培いたい人。

カリキュラム・ポリシー

広い視野に立つ精深な学識を授け、専攻分野における研究能力またはこれに加えて高度な専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培い、そして豊かな人間性を追求し続ける素養を身につけるための教育・研究指導を行う。

- 専攻分野における基礎的素養の涵養を図るための「総合特論」を開設する。
- 専攻分野における高度な専門知識を修得するための講義科目を開設する。
- 専攻分野における諸課題に関し、解決に導く能力を養うため、「特別研究演習」を開設する。
- 高い学術水準の学位論文の完成に向けて、指導教員（主指導教員および副指導教員）による個別の研究指導を受ける。
- 公開の中間報告会や最終発表会におけるプレゼンテーションや討議を通じて、調整力や研究内容の質の向上を図る。

ディプロマ・ポリシー

研究科の定める年限において所定の単位を修得し、以下の学識・能力を身につけ、かつ修士論文・修士作品又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。

【知識・技能】 専攻分野に関する高度な知識・技能を修得し、質の高い生活の創造に向けて、それらを総合的に活用することができる。

【思考・判断】 現代社会が直面する個人、家族、地域、さらには地球規模の諸課題を発見し、生活者の視点に立って、解決に必要な情報を収集・分析・整理することができる。

【関心・意欲・態度】 常に変化する人と環境との関係を理解しながら、次々に生起する諸課題の解決に向けて、主体性を持って学び続ける意欲を有している。

【　表　現　】 コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有し、思考・判断のプロセスや結果を他者と共有することができる。

管理栄養士として勤務してから再び学問の道へ
自分の経験を後輩に還元していきたい

西村 美帆子さん　人間生活学研究科 生活文化専攻 平成31年3月修了（東京家政学院大学 現代生活学部 健康栄養学科卒業）
【職歴】日清医療食品株式会社（管理栄養士）、独立行政法人 国立病院機構 下志津病院（非常勤栄養士）を経て大学院進学、修了。現在は東京家政学院大学 人間栄養学部　助手

西村さんの歩んでいる道程

東京家政学院大学 卒業 → 入社 → 給食受託会社 → 転職 → 国立病院機構 → 入学 → 東京家政学院大学 大学院 → 着任 → 東京家政学院大学 人間栄養学部 助手

大学卒業後、現場で調理技術や献立作成の力を身につけたいと思い、給食受託会社に就職しました。調理や献立作成の業務ができるようになるにつれて、次第に栄養管理業務に携わりたいという気持ちが強くなり病院に転職をしました。病院では、社会人になってからの勉強不足を痛感しました。臨床分野は常に最新の知識が求められます。適切な栄養食事指導や栄養管理を行うには現状では力不足だと思い、勉強をし直そうと大学院進学を決意しました。また先輩の管理栄養士から、病院管理栄養士も学会発表や論文発表を求められると聞いたことも後押しとなりました。

大学院では自分の専攻分野に関する専門知識や技能を身につけ、研究のための基礎を修得します。また、管理栄養士としてのスキルアップやキャリアアップに加えて、知識だけでなく他者に対し多面的かつ広い視野の「ものの見方」を学ぶことができます。私は小児肥満を対象に早食いについての研究を行いました。データ解析や論文作成は難しく進まない時期もありましたが、学会発表を終えたときや修士論文が完成したときは、言葉にできないぐらいの達成感を味わいました。

本学に就職したのは、管理栄養士を目指した大学での学び、社会現場での学び、そして大学院での専門的な学び、これらの経験を後輩に還元したいと思ったからです。今は主に3年生の授業や臨地実習の補助をしています。3年生は授業数が多くハードな学年のため、学生の著しい成長を見ることができて嬉しいです。現在は、大学院博士課程でも学んでいます。両立しながらの業務は大変な面もありますが、研究力を向上させ、教員としてもさらに成長し、母校に貢献すべく頑張っています。私は大学院進学によって管理栄養士としての道が広がりました。

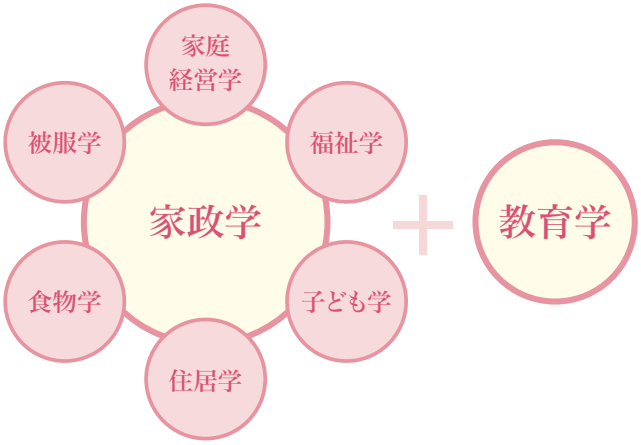
管理栄養士は生涯学び続ける必要がある職業であり、豊かな人間性が求められます。ぜひKVA精神を学ぶことができる本大学院への進学を視野に入れてみてください。

人間生活学研究科　家政学専攻

Master's program in family and consumer sciences

家政学は、家族、地域、地球に生きる人について、経済原理のみではなく、生活者の側から見据える学問です。
家政学専攻は、「総合家政」の学びに「教育学」を融合させた教育研究を展開します。

教育研究領域のイメージ



現代生活に関する問題解決のための研究または家政学と教育学を複合した研究を行うために、家政学専攻の下に２つの履修モデルを用意しています。

総合家政 モデル

実践的総合科学としての家政学が有する固有の特性を理解する履修モデルです。

家政教育学 モデル

現代の中高等学校における家庭科教育の意義を理解し、次世代の自律的な生活経営能力を指導するための履修モデルです。

授与学位
修士（家政学）

入学定員
6名

開講キャンパス
町田キャンパス
千代田三番町キャンパス

家政学専攻　3つのポリシー

アドミッション・ポリシー

これまでに培った家政学の学識や能力を基盤に、学術の理論及び応用の深奥を究めようとする好奇心の強い人、又、多様な経歴や価値観を持った人を幅広く求めている。

【知識・技能】 家政学を構成する家庭経営、被服、住居、食物及び子どもの領域に加え、福祉学、教育学を総合的に学び、高度で広範な知識・技能を身につけたい人。
【思考・判断】 生活者と社会の多様性を踏まえ、その普遍性と特殊性を理解し、客観的に分析・判断する力を身につけたい人。
【関心・意欲・態度】 生活上の問題に直面している人々に対し、問題点を論理的に解析し、解決法を持って質の高い生活の支援を行いたい人、次世代に向けて家庭科教育を通して良い生活を提言することに意欲がある人。
【　表　現　】 他者を理解した上で、自らの見解を形成し、それを豊かに表現する能力を培いたい人。

カリキュラム・ポリシー

現代生活を対象とした課題研究又は家政学と教育学を複合した研究を行うために、家政学専攻の下に2つの履修モデルとして編成し、系統的な学びのカリキュラムを編成する。

・総合家政モデルでは、実践的総合科学としての家政学が有する固有の特性を理解し、生活現場と密接した学修によって、社会で求められる専門性と実践性を得る。
・家政教育学モデルでは、現代の中高等学校における家庭科教育の意義を理解し、次世代の自律的な生活経営能力を指導するための、教育理念、人間理解の方法、教育力を考究する。
・家政学の学際性・実践性に触れることを目的として、「家政学総合特論」を開設する。
・家政学の諸領域（家庭経営、被服、食物、住居、子ども）、福祉学、教育学に関する専門的知識・能力を修得することを目的として、特論科目群を開設する。
・理論と実践の前進に寄与しうる高度な研究成果を生み出すことができるための、主指導教員を中心とした「家政学特別研究演習」を開設する。

ディプロマ・ポリシー

所定の単位を修得し、以下の学識・能力を身につけ、かつ修士論文、修士作品又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格した者に修士（家政学）の学位を授与する。

【知識・技能】 家政学とそれに隣接する学問分野に関する広範囲な知識・技能を修得し、最適で持続可能な生活の創造に向けて、それらを総合的に活用することができる。
【思考・判断】 家庭、企業、学校、地域などで直面する諸課題を発見し、生活者の視点に立って、各種多様な情報を客観的かつ論理的に判断し、課題解決に向けて具体化できる。
【関心・意欲・態度】 主体性を持って学び続ける意欲を持ち、生活の質の向上と人類の福祉、次世代の教育への貢献を目指すことができる。
【　表　現　】 コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有し、思考・判断のプロセスや結果を他者と共有することができる。

専任教員

【研究指導教員】

大橋 竜太 教授

専門分野 建築史、建築保存
担当科目 環境文化特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「歴史的建築・都市の保存・再生に関する研究」大地震や大火後に、都市がどのように再生してきたかに関する歴史研究に取り組んでいます。また、諸外国の歴史的建造物の保存の実態について、特に防災的観点から制度や技術の調査・研究を行うとともに、小岩井農場（雫石市）、英国領事館（長崎市）、グラバー邸（長崎市）、高山社（藤岡市）など、国内の歴史的建造物の保存・再生の実践に携わっています。

研究業績：「リスボン　災害からの都市再生」（彰国社, 2022）／「ロンドン大火」（原書房, 2017）／「英国の建築保存と都市再生」（鹿島出版会, 2007）／「イングランド住宅史」（中央公論美術出版, 2005）／「被災歴史的建造物の調査・復旧方法の対応マニュアル」（共著）（日本建築士会連合会, 2014）／「歴史的建造物の様式と修復―英国の事例を通して」（「建築の歴史・様式・社会」中央公論美術出版, 213-222頁）　など

小野 由美子 教授

専門分野 消費者教育、消費生活論
担当科目 消費者教育特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「支援の必要な人のための消費者教育について」 消費者は多様であり、主体的に生きるために求められる消費者教育の学習目標も一様ではありません。近年、消費者の持つ特性による違いに考慮した消費者教育や施策が注目されています。未成年者や高齢者、障害のある消費者について、特別支援学校や高等学校などを対象にした調査を実施する形で、それぞれの立場に配慮した消費者教育のあり方について研究しています。

研究業績：「要支援消費者に対する家計管理支援のあり方―知的障害等のある消費者の日常的な金銭管理を中心に―」（日本消費者教育学会『消費者教育』45, 1-9, 2025）／「特別支援学校における金融教育」（ゆうちょ財団『季刊個人金融』夏号, 60-66, 2024）／「全国の特別支援学校における金銭管理教育と社会資源の活用について」（国民生活センター『国民生活研究』, 58（1）, 44-65頁, 2018）　など

河田 敦子 教授

専門分野 教育史、ジェンダー史
担当科目 家政学総合特論、教育学特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「近代公教育制度における権力構造や公共性の性質とその形成過程の国際比較（日本とフランスの比較）」「フランスの公教育大臣であったギゾーの公共性の思想がどのように日本に輸入されたか」「女性にとって『公』とは何か～幕末明治期の女性のライフヒストリー研究～」に取り組んでいます。

研究業績：「近代日本地方教育行政制度の形成過程」（風間書房, 2011）／Atsuko KAWATA, Tokio KATO, Life history of Naito Masu,Revista Brasileira de Pesquisa（Auto）biográfica,v. 4, n. 12,p879-892,（2019）／「教員の『公務員』性成立をめぐる歴史の国際比較」（東京家政学院大学, 2019）　など

北見 由奈 教授

専門分野 健康心理学、教育心理学、応用健康科学
担当科目 教育心理学

研究テーマ：「メンタルヘルスの向上を目指した予防的・開発的アプローチ」
心理学で構築された理論や技法を人々の心身の健康の維持・増進や疾病の予防・治療に応用・活用していくことを目的としています。主に学校教育現場に関わる人々を対象として、ライフスキルの向上や就職活動ストレスの軽減、ソーシャルメディア依存、学習場面における困り感、身体活動がメンタルヘルスに与える効果などを取り上げて研究しています。

研究業績：「外国につながる子どもへの理解を目指した日本と海外の大学生におけるオンライン交流に関する報告」（湘南工科大学教職センター年報, 4, 8-25頁, 2025）／「スマートフォンを媒体としたソーシャルメディアの利用に伴う恩恵と負担に関する研究―テキストマイニングによる探索的検討―」（学校メンタルヘルス, 22(2), 162-170頁, 2019）　など

小池 孝子 教授

専門分野 住居計画学
担当科目 家政学総合特論、住環境計画特論、 住環境設計特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「保育施設の施設環境に関する研究」「集合住宅の共有空間に関する研究」 少子高齢化、人口減少時代において、人々がより豊かな暮らしを送ることのできる環境づくりをめざして、住まいや地域、地域施設に関する研究を行っています。保育所、学童保育所といった子どもの施設の計画、集合住宅の外部共有空間の計画に関する研究のほか、空き家問題にも取り組んでいます。

研究業績：「スウェーデンにおける学童保育施設環境の特性」（こども環境学研究, Vol13　No3, 31-37頁, 2017）／「共用スペースの活用による高層高密度団地の活性化に関する研究」（住宅総合研究財団研究論文集, No.34, 185-194頁, 2008）／「保育環境のデザイン」（全国社会福祉協議会, 2014）　など

佐野 潤子 教授

専門分野 生活経済学、家族社会学、金融老年学
担当科目 生活経営学特論、家政学特別研究演習、家政学総合特論

研究テーマ：ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画社会における子育てや介護と仕事の両立）、昇進、リーダーシップ、これらに関わるジェンダー問題一般など、近年は長寿社会における資産形成：家計管理・家計の意思決定（夫婦で財布の紐を握るのはどちらか）、ジェンダー意識（性別役割分業意識）、金融教育（資産運用など）などの研究に取り組んでいます。

研究業績：「既婚女性の資産形成とジェンダー意識―日本とノルウェーとの比較から―」（生活経済学会,2023）、『生活経済学研究』（No.57、61-81頁、2023）　など

嶋田 芳男 教授

専門分野 地域福祉、福祉近現代史
担当科目 地域福祉活動特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「在宅福祉サービスの成立過程に関する研究」わが国の在宅福祉サービスは、地域における地方自治体行政や民間施設などによって先駆的に実践され、その後、国により制度化されています。しかし、それら先駆的実践の成り立ちに関する詳細な分析・検討は、あまり見られない状況です。そこで、先駆的に実践された各種サービスの詳細な成立過程を分析・検討し、それらの全体像を明らかにする研究を主に行っています。

研究業績：「地域福祉の原理と方法（第３版）」（学文社, 2019）／「特別養護老人ホームによる先駆的在宅福祉実践－香東園の取り組みに焦点をあてー」（福祉文化研究, Vol.29, 53-63頁, 2020）／「町村部における地区社会福祉協議会の成立－旧相模原町（現相模原市）上溝地区の実践に焦点を当てー」（福祉文化研究, Vol.34, 50-60頁, 2025）　など

白井 篤 教授

専門分野 建築材料学、コンクリート工学
担当科目 建築構法特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「持続可能な新しい建築物を作るための建築材料・構法の開発」「補修・補強による既存建築物の更なる長寿命化」 建築物を解体し、新しい建築物を建てるというスクラップ＆ビルドの社会は終わり、今後は、持続可能な建築物を建てていくという考え方に移っています。そこで、耐久性に優れた建築材料や構法の開発と、既存の建築物を補修・改修することで長寿命化を図るという２つの視点で研究を行います。

研究業績：「建築用ポリマーセメントモルタルの防火性能およびその試験方法の提案」（日本建築学会構造系論文集, 第73巻, 第631号, 1449-1457頁, 2008）／「改修工事の標準仕様書および指針類の整備の状況並びに考え方（あり方）」（日本建築学会研究協議会＜主題解説＞, 37-42頁, 2015）／「建築材料 新テキスト」（彰国社, 2014）／「JIS A 1171」（日本規格協会 2016）　など

【研究指導教員】

新開 よしみ 教授

専門分野　保育学、児童学
担当科目　家政学総合特論、子ども学特論、 家政学特別研究演習

研究テーマ：「子どもの身体表現・劇的な表現を育む保育に関する研究」「保育者養成における保育内容「表現」の授業研究」など　子どもの「ふり」や「つもり」の世界、イメージ遊びやごっこ遊び、リズム遊び、「ノリ」遊び（ダンス的な表現の芽生え）など、身体表現遊びやノンバーバルコミュニケーションに関心があります。近年は保育者養成課程における領域「表現」の授業のあり方の研究に取り組んでいます。

研究業績：「保育者のためのキャリア形成論」（建帛社, 2015）／「指導計画の書き方」（チャイルド社, 2016）／「領域『表現』の専門的事項の授業において、教員の専門性はどのように生かされるのか」（日本保育者養成教育学会, 2020）／「子どもの活動が広がる・深まる保育内容『表現』」（中央法規, 2022）　など

中田 範子 教授

専門分野　幼児教育学、保育学、こども環境学
担当科目　子ども学特論

研究テーマ：幼稚園・保育所などの保育・幼児教育施設と連携した研究が中心です。幼児にとっての保育環境の意味や機能に関する研究の他、現在は、現代的な課題として挙げられる、狭小園庭を有する保育施設での子どもたちの経験内容、認定こども園で生活する子どもの多様性を調査した結果をもとに、カリキュラム開発を行っています。

研究業績：保育現場における子どもにとっての閉所の機能：保育学研究, 57（2）, 66-75.（2019）／2～3歳児にとっての場の機能―保育室内における滞留行動と回遊行動に着目して―：保育学研究, 59（2）, 63-74.（2021）/園庭評価指標を用いた園内研修―語りから導き出せる園庭の価値の再評価―：乳幼児教育・保育者養成研究, 3, 26-34.（2023）　など

三澤 朱実 特命教授

専門分野　公衆栄養学、栄養指導・教育、食育
担当科目　家政学総合特論、食生活学特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：研究テーマは食環境整備、和食（主食・主菜・副菜）です。地域や学校、企業などを対象とし、人々の食の課題を調査して、介入すること（食育や栄養教育、食環境整備、地域貢献活動など）の効果を検証しています。

研究業績：若年層の食育における食事の色の種類及び出現回数と食事摂取量との関連：日本家政学会誌,75, 16-23,2024. 若年女性に対する色彩を視点とした食育効果の検討：日本食育学会誌, 15, 147-157, 2021.　Taste investigation of the miso soup for the restriction of sodium intake：ICN,2022.　など

山村 明子 教授

専門分野　西洋服飾史、服飾文化
担当科目　家政学総合特論、服飾文化特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「近現代の着物文化の展開」、「家庭生活における衣服と暮らしの変容」近年取り組んでいるのが、家庭の中の衣生活史という切り口です。服飾史の多くは社会生活において現れる現象を流行としてとらえてきました。しかし、家庭という閉じられた空間で何を着ているのか、と考えていくとまだ気づけていなかった、衣服と生活と家族との関わりにおいて問題提起ができると考えています。

研究業績：「提案された家庭着にみる男性観：1960年代のマイホーム主義に注目して」（日本家政学会誌75（11）, 551-563頁, 2024）／「『婦人画報』にみる主婦のふだん着と生活様式」（国際服飾学会誌 No.61, 82-93頁, 2022）／「楊洲周延作『貴顕舞踏の略図』に関する一考察」（日本家政学会誌72（9）, 609-616頁, 2021）／「ヴィクトリア朝の女性たち–ファッションとレジャーの歴史–」（原書房, 2019）など

和田 美香 教授

専門分野　保育学、子ども学、児童学
担当科目　子ども学特論

研究テーマ：現場の保育者の視点を大事に研究を行っています。これまで行ってきたテーマとしては「衝動・多動傾向の子どもに関する保育者に対する研修プログラムの開発」「インクルーシブ保育における個別の指導計画作成と運用システム構築のための支援研究」「多文化保育における幼児のことば」などがあります。いずれも、保育者を支援するような研究です。

研究業績：衝動・多動傾向のある子どもに対する保育者の困り感と対応の現状-質問紙調査の結果より-：保育学研究59（2）p 75～85,　2021／
幼稚園等における現状と課題またそれに関する提案：文部科学省　今後の幼児教育の教育課程、指導、評価のあり方に関する有識者検討会第7回（口頭発表）2024／
幼保小接続の実践に見る接続の促進要因と阻害要因：こども教育宝仙大学紀要16p65～70,　2025　など

花田 朋美 准教授

専門分野　繊維学、テキスタイル材料学、染色加工学
担当科目　衣環境学特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「混合溶媒法による収縮加工の研究」　既存の合成繊維に新たな付加価値を付与することを目的として、繊維の良溶媒と貧溶媒を用いた混合溶媒法による収縮加工の研究を進めています。繊維収縮のメカニズムの考察と共に染色性への影響や物性変化について実験を行い、特に生分解性合成繊維においては生分解性への影響についても検討し、環境配慮型繊維の衣料用テキスタイルへの展開について提案しています。

研究業績：「ポリ乳酸繊維布の収縮加工における繊維径および良溶媒種の影響」（繊維製品消費科学 vol. 53, 826-834頁, 2012）／「良／貧溶媒混合溶液で収縮加工したポリ乳酸繊維布の生分解性に及ぼす良溶媒種の影響」（繊維学会, 2018）／「良／貧溶媒混合溶液により収縮加工したポリ乳酸繊維布の染着量の変化」（繊維学会, 2019）　など

【研究指導補助教員】

竹中 真紀子 教授

専門分野　食品科学
担当科目　食生活学特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「食品の調理・加工による品質変動とその評価」 食品の調理・加工によって、機能性成分などの有用成分がどれくらい失われるのか、また、天然毒素や有害加熱生成物などの有害成分をどれくらい低減できるのか（生成量を抑制できるのか）、そしてそれらの観点から有用な調理・加工方法が喫食する側および調理する側から受け入れられるのかといったことについて研究しています。

研究業績：「玄米の炊飯におけるアクリルアミドの生成」（日本調理科学会平成29年度大会, 2017）／「沖縄の8箇所の離島で製造された黒糖の官能特性の違い」（日本食品科学工学会第70回記念大会, 2023）／Reduction of pyrrolizidine alkaloids by cooking pre-treatment of the petioles and the young spikes of *Petasites japonicus*：Food Sci. Technol. Res., 28, 245-255, 2022　など

【研究指導補助教員】

石綱 史子 准教授

専門分野　園芸学（ガーデニング）
担当科目　家政学特別研究演習

研究テーマ：「ハスの研究」ハスの地下茎、花、葉などの形態の特徴と、それに関連する遺伝子の同定や、花芽形成や花の開閉運動の仕組みの解明を目的とした研究を進めています。「その他」タデアイなどの日本文化で古くから栽培・利用されてきた植物を活用した教育活動や、公園を幅広い世代に利用していただくための仕組みづくりなどの社会連携活動にも取り組んでいます。

研究業績：Structural changes in Nelumbo flower petals during opening and closing.（AJB e16433. 2024）／「タデアイの栽培と生葉染め」（東京家政学院大学紀要 63:79-85, 2023）／「Flower bud formation of sacred lotus. HortScience」（49:516-518. 2014）　など

井上 清美 准教授

専門分野　家族社会学
担当科目　生活経営学特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「家族の変化にともなうケアの社会化」専業主婦の割合が減少する中で、子育ての外部化や子育て支援の制度化がどのように進行しているのかを研究してきました。現在は、フィンランドでの調査をもとにした保育労働と介護労働の比較研究や、保育者を中心とした多職種連携協働の実証研究に取り組んでいます。

研究業績：「現代日本の母親規範と自己アイデンティティ」（風間書房, 2013）／「地域子育て支援を労働として考える ー子育てひろば･一時保育を支える人々」（勁草書房, 2020）／『改訂　新しい家族関係学』（建帛社, 2018）／「子育て支援における保育者を中心とした多職種協働モデルの開発」（科研費基盤研究C　代表者　2021-2023）／「保育労働と介護労働の比較研究 ーケア共通資格を中心に（科研費若手研究　代表者　2018-2020）　など

黒田 久夫 准教授

専門分野　食品機能学
担当科目　食品機能学特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「食品の酵素と品質」　植物性食品に含まれる酵素がどのように食品の品質に影響を与えるかを、生化学の手法で解析しています。「おいしさの化学感覚」ヒトの嗅覚、味覚や心理とおいしさの関係を研究しています。「分子栄養学」　分子栄養学は、分子生物学と栄養学を組み合わせた新しい学問です。ヒトの遺伝型と栄養の関係を明らかにしていきます。

研究業績：Identification and functional analyses of two cDNAs that encode fatty acid 9-/13-hydroperoxide lyase（CYP74C）in rice. Biosci. Biotechnol. Biochem. 69: 1545-1554, 2005. ／「オオムギの脂質酸化酵素とビールの品質」（温古知新 49:83-90頁, 2012）／「大豆の加工時におけるリポキシゲナーゼの脂肪酸含量への影響」（日本家政学会第72回大会, 2020）　など

丹羽 さがの 准教授

専門分野　発達心理学
担当科目　発達支援特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「幼児期から児童期の学び・育ちについて」　幼稚園・保育所・子ども園での幼児期の学びから、小学校での児童期の学びへつなげていく接続期のあり方に関心があります。幼児期の学びや育ちを土台として、児童期の学びを展開していく方法を、さまざまな視点から考えたいと思っています。

研究業績：「保育の心理学ー子どもの育ち・学びを知るー」（光生館, 2019）／「子どもの理解と援助ー育ち・学びをとらえて支えるー」（光生館, 2019）／「育ちと学びをつなぐ幼小接続（2）ー幼小接続に関するキーワードの既知と研修の参加回数に関する調査ー」（平成30年度保育教諭養成課程研究会研究大会, 2018）　など

柳瀬 洋美 准教授

専門分野　臨床心理学、発達臨床心理学、児童学、保育学
担当科目　発達支援特論、家政学特別研究演習

研究テーマ：「子育て支援」　児童虐待に象徴されるように、社会の変容と共に、子どもたちを取り巻く環境は複雑で厳しいものとなっています。こうした社会的背景を踏まえながら、個々の生い立ちや発達的な課題にも焦点を当て、目の前の相手に寄り添い支援するという実践活動をベースに、主に子どもと家族をめぐる諸問題について、臨床心理学的な視点から研究を行っています。

研究業績：「気になる保護者の理解のために「内なる子ども」との対話を通して」（ジアース教育新社, 2022）／「社会的子育ての実現ー人とつながり社会をつなぐ保育カウンセリングと保育ソーシャルワーク」（ナカニシヤ出版, 2022）／「発達障害の理解と指導」（大学図書出版, 2018）／「人間関係の理解と臨床ー家庭、園、施設、学校、職場の問題解決へ向けて」（慶應義塾大学出版会, 2017）　など

授業科目一覧

科目区分		授業科目	単位数
導入科目		家政学総合特論	2
専門領域科目	家庭経営学	生活経営学特論	2
		消費者教育特論	2
	被服学	服飾文化特論	2
		衣環境学特論	2
	食物学	食生活学特論	2
		食品科学特論	2
		食品機能学特論	2
	住居学	住環境計画特論	2
		住環境設計特論	2
		環境文化特論	2
		建築構法特論	2

科目区分		授業科目	単位数
専門領域科目	子ども学	子ども学特論	2
		発達支援特論	2
	福祉学	高齢者福祉特論	2
		地域福祉活動特論	2
	教育学	教育学特論	2
		教育実践特論	2
		教育心理学特論	2
研究指導科目		家政学特別研究演習 1	2
		家政学特別研究演習 2	2
		家政学特別研究演習 3	2
		家政学特別研究演習 4	2

授業紹介

生活経営学特論

担当　佐野 潤子 教授
井上 清美 准教授

孤独や孤立が深刻化する中で、地域コミュニティの重要性や実現可能性について認識と理解を深めます。2回の学外演習を通してコミュニティ共創の実践を学び、地域プロデューサーの資格を取得します。地域における生活向上のために何が必要か、それぞれの立場から提案できるようになることが目標です。

食生活学特論

担当　三澤 朱実 特任教授
竹中 真紀子 教授

食生活について、健康との関わり、調理・加工による変化、嗜好性など科学的な側面から、最新の知見も取り入れて講義します。また、食の機能性など、食に関する正しい情報の収集する方法についても解説します。

子ども学特論

担当　新開 よしみ 教授
中田 範子 教授
和田 美香 教授

子ども学分野の文献を講読し、子どもを取り巻くさまざまな現代的課題を理解するとともに、最新の研究動向について検討。受講生の発表を中心とした授業のほか、保育実践の場における観察調査も実施します。

服飾文化特論

担当　山村 明子 教授

19世紀後半のイギリス・ヴィクトリア朝の社会における女性の位置づけを理解し、当時の女性服飾が包含していた意味を学びます。同時代に西欧文化を積極的に導入した日本では、洋服がどのような存在かも考えます。

住環境計画特論

担当　小池 孝子 教授

住環境を計画する際、生活の質を向上させるため解決すべき課題を検討。前半は「住宅地のフィールドワークを通して地域における課題」を、後半は「自宅、建築家の住宅などの図面を3つ選定し生活における計画上の課題」を抽出し、改善案を提案します。

教育学特論

担当　河田 敦子 教授

近代公教育制度の成立過程を国際的に比較しながら、公教育とは何かを歴史的に考察。「公教育」の多様性を学び、教員として、今後の日本の公教育のあり方を国際的、多面的かつ自身に引きつけて考えられるようになることを目標とします。

家政学専攻 修了後の進路

- 地域社会に貢献する公務員
- 次世代の生きる力を育てる中学校・高等学校家庭科教諭
- 公共団体などにおける消費生活のアドバイザー
- 企業などにおける生活者の視点を活かした専門的スタッフ

家政学専攻 取得できる資格

- 中学校教諭専修免許状（家庭）
- 高等学校教諭専修免許状（家庭）

家政学専攻　過去の修士論文題目の例

- □ 花嫁かつらの伝承に関する研究
  ―現状分析と着装感の解明と提案―
- □ 国際結婚をした中国人女性農業者のエンパワメントプロセス
- □ 戦後日本の狭小住宅における平面計画に関する研究
- □ 19世紀ヨーロッパの女性服飾にみる黒いチョーカーについての言説
- □ 中国における今後の高齢者支援を踏まえたソーシャルネットワークの実際に関する研究　―日本との比較を踏まえて―
- □ 親子分離不安と関係性の発展
  ―幼児の集団活動における親子関係の変化―

修了要件	(1) 学則第 20 条に基づき、30 単位以上を修得すること。 (2) 修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験に合格すること。

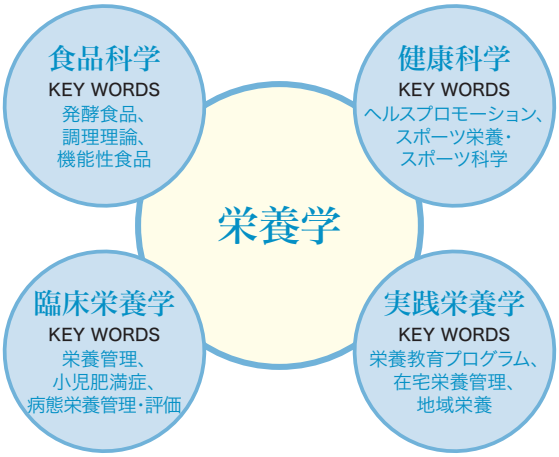
履修要件	(1) 必修 10 単位「家政学総合特論」「家政学特別研究演習 1～4」 (2) 選択 20 単位以上

人間生活学研究科　栄養学専攻

Master's program in nutrition sciences

栄養学は、さまざまなライフステージ及び健康状態にある人々の栄養の営みを対象とし、ヒトに関わる領域、食品に関わる領域、さらにはそれらの関係性や実践に関わる領域をも含む、総合的で複合的な学問です。

教育研究領域のイメージ



栄養学専攻は、栄養学を食品科学、健康科学、臨床栄養学、実践栄養学の各領域に体系化し、それぞれの専門的知識と技術を総合的に修得できるのが特徴です。

授与学位
修士（栄養学）

入学定員
4名

開講キャンパス
千代田三番町キャンパス

栄養学専攻　3つのポリシー

アドミッション・ポリシー

これまでに培った栄養学の学識や能力を基盤に、学術の理論及び応用の深奥を究めようとする好奇心の強い人、又、多様な経歴や高い倫理観をもった人を幅広く求めている。

【知識・技能】 食品に関わる領域、健康に関わる領域、そして、その関係性や実践に関わる領域を広く学び、高度な知識・技能を身につけたい人。

【思考・判断】 食と栄養を中心に、人を取りまく環境に係わる今日的な健康問題を把握し、これを解決する方法について、科学的根拠に基づき探究したい人。

【関心・意欲・態度】 学術の急速な進歩と社会構造の変化に関心を持ち、健康の維持・増進並びに疾病の予防に貢献したい人。

【　表　現　】 他者を理解した上で、自らの見解を形成し、それを豊かに表現する能力を培いたい人。

カリキュラム・ポリシー

栄養学の幅広い研究領域の視野を得て、その中で自身の研究課題を位置づけ、研究の実施が可能となるよう、系統的な学びのカリキュラムを編成する。

・個別の研究課題に取り組む前に、栄養学の学際性・多様性に触れる目的で、入学時に全専任教員による「栄養学総合特論」を開設する。
・多様な知見を深める目的で、食品科学、健康科学、臨床栄養学、実践栄養学の領域における特論科目群を開設する。
・研究を進めるための方法論の修得を目的として、「食品・栄養英語文献抄読演習」を開設する。
・修士論文の作成に向け、複数の教員による指導を受けることができ、多領域の教員からも助言を得ることができる「栄養学特別研究演習」を開設する。

ディプロマ・ポリシー

所定の単位を修得し、以下の学識・能力を身につけ、かつ修士論文についての研究成果の審査および最終試験に合格した者に修士（栄養学）の学位を授与する。

【知識・技能】 栄養学に関する高度な知識・技能を修得し、それらを総合的に活用することができる。

【思考・判断】 科学的な視点で人と栄養・食に関する様々な問題を捉え、優れた思考力・判断力を持って解決法を導き出すことができる。

【関心・意欲・態度】 主体性を持って学び続ける意欲を持ち、食品、保健、医療、食育などの分野で中核として活躍できる能力を有している。

【　表　現　】 適切な栄養管理を実践できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を有し、高い倫理観を持って思考・判断のプロセスや結果を他者と共有し、解決策を提言できる。

専任教員

【研究指導教員】

江川 賢一 教授

専門分野 **健康・スポーツ科学**（スポーツ生理学、ヘルスプロモーション）
担当科目 **栄養学総合特論、運動生態学特論**

研究テーマ：「スポーツ・健康づくりのアドボカシーの生態学的研究」ジュニアサッカー合宿、大学生アスリートを対象としたスポーツ栄養学研究や、公衆衛生学、健康教育学、スポーツ科学に基づく調査や実験を実施しています。健康な社会参加へのアクセシビリティとしての公共交通機関の社会実装を目的とした多施設共同によるアドボカシー研究に参画し、人間の運動行動と環境との関係を解明する『運動生態学研究』に取り組んでいます。
研究業績：「アクションリサーチからアドボカシーへ」（日本健康教育学会誌, 31(1), 8-13頁, 2023）／「コロナ禍における身体活動・運動を中心とした非感染性疾患対策」（日本健康教育学会誌, 30(4), 323-327頁, 2022）／「新型コロナウイルス感染症蔓延による都道府県民健康・栄養調査への影響」（日本公衆衛生雑誌, 69(8), 586-594頁, 2022）　など

斉藤 恵美子 教授

専門分野 **食生活学**（小児科学、応用栄養学、臨床栄養学）
担当科目 **栄養学総合特論、小児臨床栄養学特論**

研究テーマ：「生活環境・習慣と疾患」 おもに小児における生活環境や習慣と各種疾患（特に生活習慣病やアレルギー疾患）との関連の研究に取り組んでいます。
研究業績：「小児の体格と親子の食習慣の関連について」（日本小児保健学会, 2019）／「新生児血中特異的IgE抗体と乳児期の感作およびアレルギー疾患発症に関する検討」（日本小児アレルギー学会, 2017）／「小児期 non-HDLC の縦断変化と成長に伴う体格変化の関連性」（日本肥満学会, 2015）　など

酒井 治子 教授

専門分野 **地域栄養教育学**（食育、食発達）
担当科目 **栄養学総合特論、地域栄養教育特論**

研究テーマ：「幼児の食行動の発達過程の解明と、それに対応した食育の実施・評価」 地域でのさまざまな栄養活動の実践を通して、その栄養教育の計画・実施・評価の具体的な展開についての課題解決の方法について研究しています。特に、ライフステージとしては、乳幼児から学童期の子どもを対象に、その発達過程を解明しつつ、家庭や保育所での食育実践から、理論を構築する方法を探求していきましょう。
研究業績：保育所等の食物誤嚥による窒息事故の起因となり得る背景～事故検証報告書の分析，保育と保健　30（2），30-32，2024／健康・栄養を支える和食と，次世代への和食文化継承，食品と容器　65（1），24-31，2024／大規模災害時における学生ボランティアの育成と、ネットワーク化に関する研究, 第４章　第２節 大学生による災害時の栄養・食支援のための動画コンテンツの作成とその学習効果, 令和６度「千代田学」に関する区内大学等の事業提案制度 事業実施報告書，2025　など

田中 千晶 教授

専門分野 **公衆衛生学、発育発達学**
担当科目 **栄養学総合特論、ヘルスプロモーション特論**

研究テーマ：「健康に資する身体活動促進と体力向上のための生活習慣・環境改善」子どもから高齢者までの幅広い年齢層における健康の保持増進のため、生活習慣および環境の改善に資する研究や、アーティスティックスイミング元日本代表の経験を活かしたスポーツ参加促進について研究しています。また、経済状況の異なる複数の国が参画する国際共同研究に取り組んでいます。
研究業績：Results from the Japan 2022 Report Card on Physical Activity for Children and Youth. J Exercise Science & Fitness.17,20-25（2022）/「基礎から学ぶ発育発達のための身体活動~元気な子どもを育む確かな根拠~」（杏林書院, 2019）　など

林 一也 教授

専門分野 **農芸化学**（応用微生物学、食品科学、食品加工学、食品衛生学）
担当科目 **栄養学総合特論、食品学特論**

研究テーマ：「食品の成分に関する研究」 食品にはさまざまな成分が含まれます。その中でもアントシアニンを代表とする色素成分の探求や食品加工による変化、それらの生理機能性などを研究しています。さらに、微生物や酵素に関する研究、食酢などの伝統食品に関する研究にも取り組んでいます。
研究業績：Anthocyanins from skins and fleshes of potato varieties,Food Science and Technology Research,Vol.1,No2.,pp.115～122,2010／「アントシアニンと食品」（建帛社, 2015）／「ワインビネガーの明治時代から昭和におけるまでの活用の発展と展開」（日本調理科学会2019年度大会, 2019）　など

山田 光彦 教授

専門分野 **病態生理学、神経科学**
担当科目 **栄養学総合特論、病態生理学特論**

研究テーマ：「誰かの毎日をもっと幸福にする栄養学研究」人生のさまざまなステージにおいて、毎日の食事は、私たちの身体を形成し、エネルギーを補うとともに、その機能を整えてくれます。ココロの調子さえ食事によって大きな影響を受けます。病態生理学研究室では、どのような方が、何を、いつ、どのように食べるのが大切なのかについて明らかにするべく、Precision Nutrition の立場から研究を進めています。
研究業績：「Participation of the nucleus accumbens dopaminergic system in the antidepressant-like actions of a diet rich in omega-3 polyunsaturated fatty acids: PloS one 15, e0230647」（2020）　など

會退 友美 准教授

専門分野 **食環境・食教育学**
担当科目 **栄養総合特論・公衆栄養学特論**

研究テーマ：「乳幼児期における食環境に関する研究」人の食行動は、食環境や認知が相互的に関係しあってできあがります。つまり、食環境づくりや教育を行うことで、様々な集団にある人々や個人の食生活が形成されます。そこで、どのような要因が食習慣を形成するのか、質問紙調査やインタビュー調査を行い、主に乳幼児期を対象に研究を行っています。
研究業績：食を通した子育て支援に関する研究～地域資源との連携に注目して～：保育科学研究、第14巻、128-159、2025．栄養学専攻の大学生における子どもの頃の食経験に関する質的検討２：中学生の頃の食経験：第34回日本健康教育学会学術総会　など

大富 あき子 准教授

専門分野 **食生活学**（調理、食育、食文化）
担当科目 **栄養学総合特論、調理学特論**

研究テーマ：「低利用・未利用の深海性魚介類の食材開発と食教育への導入」　世界的に魚介類の消費量が増加している中で、逆に水産大国の日本では減少し肉類に嗜好が傾いています。また食教育の現場では地産地消が見直されていますが魚介類の認知度は低く、食教材としての関心や問題意識は農畜産物と比較し低いといえます。そこで漁獲されても海上投棄されてしまう未利用魚の食材および食教育への活用を検討しています。
研究業績：「地域連携を通した管理栄養士養成教育の実践活動―低利用魚を活用した一汁三菜の御膳販売から得られたこと―」（東京家政学院大学紀要、60、2020）/「山川漬け」（[別冊うかたま]伝え継ぐ日本の家庭料理<一般社団法人農山漁村文化協会>第14巻「漬物・佃煮・なめ味噌」、14-15、2019）/「深海性低・未利用魚介類を題材とした小学生対象の食育媒体の評価」（日本調理科学会大会、2023）　など

【研究指導教員】

辻 雅子 准教授

専門分野 栄養教育、食教育、食情報
担当科目 栄養学総合特論、栄養教育特論

研究テーマ：「人の食行動変容に対し栄養教育的手法が及ぼす効果について」栄養教育の実践には栄養学・食品学・教育学・心理学・社会学・食文化など、さまざまな幅広い学問分野から総合的に研究を行うことが必要です。人の食行動変容を促す手法についての基礎的研究や、栄養教育実施者にとって必要な栄養教育教材についての研究にも取り組んでいます。

研究業績：栄養教育論第2版（光生館，2020.03）/女子大生のダイエットサプリメントの使用状況と副作用について（第45回日本臨床栄養協会総会，2024）/健康的で持続可能な食事パタンについて～食品群における検討～（第71回日本栄養改善学会学術総会,2024）/女子大学生に対するシリアルを用いた食育の検討－テキストマイニングを活用した意識調査－（東京家政学院大学紀要，第61号，2021） など

坂野 史明 准教授

専門分野 栄養生化学、血栓止血学
担当科目 栄養学総合特論、食品機能学特論

研究テーマ：「血栓症に有効な食品由来成分の探索」様々な動物モデルを駆使することで、血栓性疾患（深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症、脳梗塞、心筋梗塞など）の予防・治療に応用可能な食品由来成分の解明を目指した研究を進めています。

研究業績：研究業績：血栓抑制因子の遺伝子改変マウス，疾患モデルの作製と利用–循環器疾患2021，484-493（エル・アイ・シー，2021）／Exacerbated venous thromboembolism in mice carrying protein S K196E mutation. Blood, 126（19），2247-2253（2015） など

【研究指導補助教員】

加藤 理津子 准教授

専門分野 実践応用栄養学（応用栄養学、スポーツ栄養）
担当科目 栄養学総合特論、スポーツ栄養管理学特論

研究テーマ：「スポーツ実施者および健常人を対象にした栄養管理に関する研究」 スポーツに取り組んでいる人は、競技力向上や健康づくりを目的とした栄養･食事の内容や摂取方法に関心が高い傾向にあります。そこで、スポーツ実施者や健常者を対象に、身体および栄養･食事摂取状況の実態と、栄養･食事に関する情報のニーズを調査しています。その結果から効果的な栄養教育の内容、方法、媒体の開発について研究に取り組んでいます。

研究業績：「 運動部女子中高生における生活習慣状況調査」第9回日本食育学会学術大会2021／「運動と発育」（臨床スポーツ医学37巻5号，2020）／「改訂応用栄養学実習書－PDCAサイクルによる栄養ケアー」（建帛社，2024）／スタンダード人間栄養学　応用栄養学　第4版（朝倉書店2024） など

城田 直子 准教授

専門分野 臨床栄養学、官能評価
担当科目 栄養学総合特論、臨床栄養学特論

研究テーマ：「嗅覚・味覚・視覚と美味しさに関する研究」近年、高齢者だけでなく若年者の嗅覚・味覚異常が増加しているといわれています。以前は、血液透析患者を対象とした嗅覚・味覚の研究を行っていましたが、現在は、若年者を対象とした嗅覚・味覚・視覚と美味しさの関係、嗅覚・味覚と自己意識などについて研究しています。

研究業績：「透析患者の感覚器障害 4 嗅覚障害（3）嗅覚と味覚の関連性」（臨牀透析 Vol.36 No.1、2020）／「CKDの最新食事療法のなぜ？に答える－実践編 Ver.2」（臨牀栄養別冊、2022）／「CKDの最新食事療法のなぜ？に答える－透析編」（臨牀栄養別冊、2022）／「コロナ禍における女子大学生の栄養摂取状況と生活状況の関連」（東京家政大学研究紀要、2023） など

吉野 知子 准教授

専門分野 給食経営管理（高齢者栄養管理、在宅チーム医療）
担当科目 栄養学総合特論、栄養管理学特論

研究テーマ：「高齢者の栄養ケア・マネジメントと栄養評価」 高齢者の低栄養はさまざまな身体・精神機能の低下と関連しており、栄養ケア・マネジメントによって低栄養改善を図る際には単にエネルギー・栄養素の補給を目的とするのではなく、食べることに関連する種々の徴候・症状を的確に把握し、安定した食事摂取状況を確保するために食環境を含め適切に問題解決に努めることが、QOLの向上や予後の改善につながります。

研究業績：「実践 給食マネジメント論 第4版」（第一出版株式会社 2023）／「在宅高齢者食事ケアガイド」（第一出版株式会社，2014）／「介護保険施設入所者に対する栄養・口腔関連の介護報酬算定の取り組み」（日本給食経営管理学会，2014） など

授業科目一覧

科目区分		授業科目	単位数
導入科目		栄養学総合特論	2
専門領域科目	食品科学	食品学特論	2
		食品機能学特論	2
		調理学特論	2
	健康科学	ヘルスプロモーション特論	2
		運動生態学特論	2
		スポーツ栄養管理学特論	2
	臨床栄養学	病態生理学特論	2
		臨床栄養学特論	2
		小児臨床栄養学特論	2

科目区分		授業科目	単位数
専門領域科目	実践栄養学	栄養教育特論	2
		地域栄養教育特論	2
		公衆栄養学特論	2
		栄養管理学特論	2
	共通	食品・栄養英語文献抄読演習	1
研究指導科目		栄養学特別研究演習 1	2
		栄養学特別研究演習 2	2
		栄養学特別研究演習 3	2
		栄養学特別研究演習 4	2

授業紹介

食品学特論

担当　林 一也 教授

食品のさまざまな事項、伝統食品の加工など食の歴史を含めたものを学び、食とは何かを考えます。多様な食品群の生産、栽培を含め本質を知ることで、人間にとって欠かせない「食物」を違う角度から見ることができます。

病態生理学特論

担当　山田 光彦 教授

病態生理学は、正常な生理機能の破綻により引きおこされる病態を理解し、その予防法や治療法を開発する学問です。自らの問題意識を出発点として研究疑問を設定し、先行研究を詳細に検討し発表する、一連の研究プロセスを実践的に学びます。

食品機能学特論

担当　坂野 史明 准教授

健康の維持・増進に関わる栄養素や食品成分の機能について、分子レベル、細胞レベル、個体レベルの視点から統合的に学びます。また、生活習慣病をはじめとする疾患に対する食品やその成分の影響について理解し、食を通じた疾患予防戦略を立案・評価・検証します。

栄養管理学特論

担当　吉野 知子 准教授

適切な栄養管理を実践するために、栄養アセスメントの様々な手法を検証すると共に症例を通じて多職種協働・連携の実際を学びます。また、在宅における栄養管理の現状と問題点を社会的要因も踏まえ理解し、今後の課題と可能性について考えます。

ヘルスプロモーション特論

担当　田中 千晶 教授

日本を含む様々な経済状態の国々が参画する国際共同研究などを通して、国内外の体型評価の違いやスポーツをはじめとする身体活動量および座位行動の評価法など、ヘルスプロモーションに関連する最新の研究手法や、生活環境などとの関連といった国内外の健康課題を学修します。

地域栄養教育特論

担当　酒井 治子 教授

地域ベースでの栄養教育の実践のために、地域で暮らす人々のニーズアセスメントの手法を身につけます。社会資源との連携、科学的根拠に基づいた計画・実施、個人・環境アプローチの組み合わせなど、具体的な方法と理論を学びます。

栄養学専攻 修了後の進路

- 医療・介護に関わる高度な栄養管理を実践する専門分野の管理栄養士
- 行政分野で取り扱う栄養問題の改善・解決にリーダーシップを発揮する行政栄養士
- スポーツ、健康増進、学校などの現場で、対象者の目的に応じた高度な栄養管理を実践するスペシャリスト
- 食品企業などで栄養面、安全面、経済面を踏まえた商品を研究・開発するスペシャリスト

栄養学専攻 取得できる資格

- 栄養教諭専修免許状

栄養学専攻　過去の修士論文題目の例

- 簡易型自記式食事歴法質問票 (BDHQ) で評価した肥満小児の栄養摂取状況と喫食速度の関係
- アントシアニン含有馬鈴しょの調理・加工に関する研究
- 大麦若葉搾汁成分のラット腸内細菌叢への影響
- 古代米発酵赤酢に関する研究
- ワインと魚介類の相性に関する研究
- 保育園児の保護者と保育者の「子どもの食を支える力」に関する質的研究

修了要件	(1) 学則第 20 条に基づき、30 単位以上を修得すること。 (2) 修士論文の審査および最終試験に合格すること。

履修要件	(1) 必修 10 単位「栄養学総合特論」「栄養学特別研究演習 1 ～ 4」 (2) 選択 20 単位以上

各種支援制度

人間生活学研究科独自の修学・研究活動を支える多彩な制度を備えています。
働きながら修士課程の取得を目指す方や、学部からのステップアップを目指す方の学びをバックアップします。

修学支援制度

■特待生制度

入学試験の総合得点最上位者を特待生として認定する制度です。
特待生は、1年次授業料の半額（前期分15万円、後期分15万円）が免除されます。
各入試日程において1名を特待生として認定します。
※ただし、特待生の認定基準に満たない場合は特待生の対象とはなりません。

■長期履修学生制度

職業についている場合など、長期にわたり計画的に教育課程を履修することを認める制度です。新入生、1年次生時に申請することで、最大4年間まで認められます。授業料・施設設備資金は修業年限分の総額を長期履修期間の年数で割った金額となります。

■秋期（9月）入学制度

4月入学に加えて9月に入学することができる制度です。入学時期を選択できるため、社会人や留学生が履修時期を調整しやすい環境が整っています。

■科目等履修生制度

科目等履修生制度は本学大学院で開講されている授業科目を大学院に正規に入学することなく、科目等履修生として履修することができる制度です。本学大学院生と一緒に授業を受講することで、当該科目の単位を修得することができます。また、家政学専攻、栄養学専攻問わず、横断して科目を履修することができ、科目等履修生として修得した単位は、本学の大学院に入学した後、既修得単位として認定されるため、今後、本学大学院への入学を検討されている方や、大学院での授業に興味がある方などに有効的な制度です。科目等履修生としての在籍期間中は、本学の附属図書館も利用することができ、研究に必要な書籍の閲覧や、貸し出しなどのサービスを利用することができます。また、本学の大学院で学びながらほかの大学や、他専攻における授業科目の履修を認める制度もあります。

〈科目等履修生からのひとこと〉

中学、高校、大学と通った千代田三番町キャンパスで講義を受け、現役学生と意見交換する刺激的な日々。子育てを終えて次の生きがいを考えていた私に多くの気づきを与えてくれる、貴重な機会となりました。（Y.Kさん）
家庭科教師の職を定年退職した私にとって「生活経営学特論」の受講は、エイジレスとジェンダーレスへの挑戦でした。授業やフィールドワーク、報告会での発表や交流などは、知的刺激に満ち、至福のひと時でした。（K.Yさん）

■在学期間短縮制度

大学院の在学期間を短縮することができる制度です。本学大学院入学前に、本学大学院または他の大学院において修得した単位がある場合は、下記の要件を満たし、既修得単位の認定申請を行うことで、在学期間を短縮することができます。

専攻	短縮できる在学期間	要件
家政学専攻	半年	本大学院で開講している家政学特別研究演習１（２単位）を含み、かつ合計８単位以上について本大学院の教育課程の一部を履修したと認められること。
	１年	本大学院で開講している家政学特別研究演習１・２（各２単位）を含み、かつ合計15単位以上について本大学院の教育課程の一部を履修したと認められること。
栄養学専攻	半年	本大学院で開講している栄養学特別研究演習１（２単位）を含み、かつ合計８単位以上について本大学院の教育課程の一部を履修したと認められること。
	１年	本大学院で開講している栄養学特別研究演習１・２（各２単位）を含み、かつ合計15単位以上について本大学院の教育課程の一部を履修したと認められること。

研究支援制度

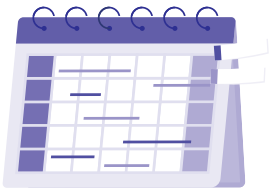
■学会発表・参加助成制度

大学院生が学会に発表・参加することを奨励しており、国内で開催される学会に発表・参加するための交通費・参加費を助成しています。学会にて研究成果を発表し、さまざまな意見を聴くことで自身の専門性を磨くことにもつながります。

■ティーチング・アシスタント制度

本大学院では、授業担当教員の指導のもと、学部の授業（実験、実習、演習など）の教育補助を行う「ティーチング・アシスタント（Ｔ・Ａ）」制度があります。Ｔ・Ａは大学の公的な業務であり、教育補助業務を担当することで、教育能力やコミュニケーション能力を高めることができ、さらに手当の支給も受けられます。

2026年度入試日程



事前相談から出願までの流れ

事前相談

事前相談申込書及び研究計画書を本学ホームページからダウンロードしてください。
必要事項を記入の上、各日程の事前相談申込締切日までにFAXまたはメールでアドミッションオフィスに送信し、事前相談を行ってください。
研究内容によっては本大学院で指導できない場合もありますので、提出していただいた事前相談申込書に基づき、学内で研究内容について確認させていただきます。

【事前相談申し込み締切日】
4月入学生Ⅰ期　2025年 8月 1日(金)まで
4月入学生Ⅱ期　2025年12月19日(金)まで
9月入学生　2026年 5月 8日(金)まで

[送信先]アドミッションオフィス
FAX：03-3262-2174
E-mail：nyushi@kasei-gakuin.ac.jp

↓

面談（必要に応じて）

研究内容について、詳しくお聞きするために、面談を行う場合があります。

↓

研究内容に関する指導可否の連絡

研究内容について、本大学院で指導可能かどうかの可否を指定された連絡先にお知らせします。

↓

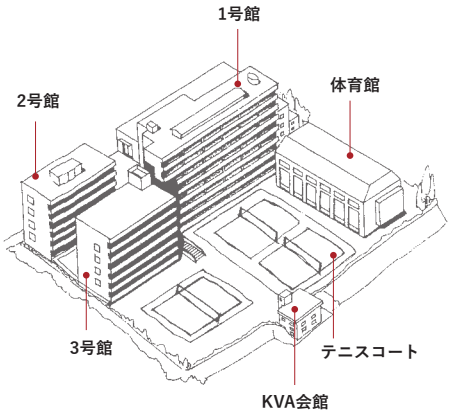
指導可 → **出願可**

指導不可 → **出願不可**

入試日程

日程	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
4月入学生Ⅰ期	2025年 8月26日（火）～ 9月12日（金）	2025年 9月27日（土）	2025年 9月30日（火）	2025年10月 9日（木）
4月入学生Ⅱ期	2026年 1月26日（月）～ 2月 6日（金）	2026年 2月20日（金）	2026年 2月25日（水）	2026年 3月 5日（木）
9月入学生	2026年 6月 8日（月）～ 6月19日（金）	2026年 7月 4日（土）	2026年 7月 7日（火）	2026年 7月16日（木）

Campus Guide



CHIYODA SANBANCHO Campus

千代田三番町キャンパス ｜■家政学専攻｜■栄養学専攻

鉄道６路線を利用できるなど、抜群のアクセスを誇る都心のキャンパスです。
白を基調とした明るい雰囲気のインテリアが中心で、各種教室をはじめ、本格的な設備が整った実習室、開放的な憩いのスペースといった、学生生活に必要な環境が整っています。

ローズホール

円形の天井が特徴の多目的ホール。ランチタイムには、食堂として学食を提供したり、お弁当を持ち寄ったりとにぎやか。ステージを出して式典や講演会に利用されることもあります。

ロビー

吹き抜けになっている明るい雰囲気のロビー。
正門からすぐの場所にあります。

大学院研究室

パソコンが備えられた大学院生専用の研究室。
院生それぞれに机が設けられ、院生同士の情報交換の場にもなっています。

ラウンジ

食事や自習以外にも多目的に利用できるラウンジ。

附属図書館

情報検索や蔵書検索に利用できるコンピュータを設置。マルチメディアルームでは、館内のDVDで好きな映画を楽しめます。

グループスタディルーム

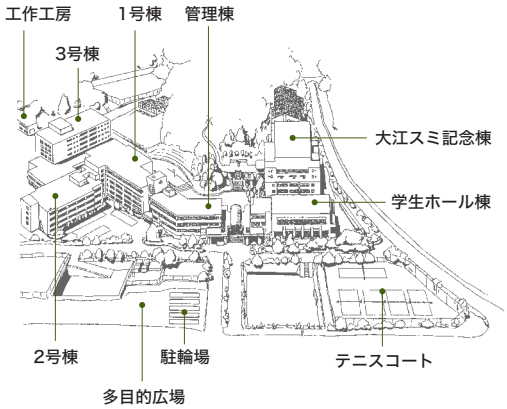
図書館内に２室あり、ゼミの討論やパソコンを持ち込んでのグループ学習などに使用できます。

パウダールーム

白を基調としたかわいいデザイン。いつも清潔にされており、使い心地抜群です。

キャリア形成支援・就職資料室

ネットを利用した独自の就職支援システムや、先輩の就活の記録などをご用意。



MACHIDA Campus

町田キャンパス

■家政学専攻

約138,000㎡の広大な敷地を持つ町田キャンパス。春には桜並木、秋には紅葉など、四季の自然を楽しめる環境です。
実習施設や図書館、学食、テニスコートなど、キャンパスライフに必要な設備が充実しているのはもちろん、本格的なホールや博物館も敷地内にあります。

ローズコート

白を基調とした空間に、モダンな照明、ピンクのソファ、雲の形をしたテーブルなど、遊び心のあるインテリアが魅力。憩いの場としてはもちろん、演習発表や学内企業説明会などの会場としても使われます。

生活文化博物館

古今東西の衣服・装身具・工芸品、民俗資料や歴史的遺物を保管・展示しています。

大学院研究室

パソコンが備えられた大学院生専用の研究室。院生それぞれに机が設けられ、在学中は自由に使用することができます。

大江スミ記念ホール

1,400名を収容できる大ホールです。入学式や卒業式といったセレモニーをはじめ、さまざまな講演会などが行われます。

食堂

和・洋・中のメニューから期間限定のご当地グルメまで、バラエティ豊かな食事をご用意。午後からはカフェとして、ゆったりした時間を過ごせます。

附属図書館

書籍約260,000冊、雑誌約1,900種、視聴覚資料約7,000点を所蔵。電子書籍の導入を始めたほか、館内のラーニングコモンズではグループ学習も行えるなど、それぞれのスタイルで利用できる環境です。

Access

町田キャンパス ｜■家政学専攻

〒194-0292 東京都町田市相原町2600番地

□ 相原駅（JR横浜線）下車、バス「相原駅西口（のりば2番）」から「東京家政学院」行
乗車、約8分　バス「相原駅西口（のりば1番）」から「大戸」行または「法政大学」行※
乗車、約6分「相原十字路」下車、徒歩約8分　※急行を除く。

※バス時刻は、相原駅発は神奈川中央交通、めじろ台駅・八王子駅発は京王バスの各社時刻表をご確認ください。

千代田三番町キャンパス ｜■家政学専攻｜■栄養学専攻

〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地

□ 市ケ谷駅（JR中央線・総武線、東京メトロ有楽町線、東京メトロ南北線、都営地下鉄新宿線）下車、徒歩約8分（地下鉄 A3出口）
□ 半蔵門駅（東京メトロ半蔵門線）下車、徒歩約8分（5番出口）
□ 九段下駅（東京メトロ東西線、都営地下鉄新宿線）下車、徒歩約12分（2番出口）

※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

東京家政学院大学大学院

資料の請求・お問い合わせは千代田三番町キャンパス・アドミッションオフィスまで

〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地

tel: 03-3262-2251（代）　fax: 03-3262-2174

E-mail: nyushi@kasei-gakuin.ac.jp

https://www.kasei-gakuin.ac.jp/department/graduate_school/